

導入	1
QuickShow システム要件	3
クイックセットアップ	4
ステップ1: ユーザーレベルを指定する	5
ステップ2: 所有しているスキャナーの種類を指定します	6
ステップ3: プロジェクターのレーザーの数を指定する	7
ステップ4: プロジェクターで使用されているカラーシステムのタイプを指定します	8
言語の選択	9

導入

QuickShowは、レーザー制御を希望するすべての人にとって使いやすいプログラムとなるよう設計されています。レーザーを初めて使用する初心者から、経験豊富なレーザーオペレーターまで、あらゆる人が簡単に操作できます。使いやすさはQuickShowの基本理念ですが、Pangolinの新しいBEYOND計算エンジンを搭載し、他の製品にはない多くの高度な機能を備えているため、非常にパワフルです。

レーザー愛好家によるレーザー愛好家のための設計

QuickShowの開発中は、ガレージで趣味でショーを演奏する人から、Oracle ProjectsのGlenn Turner氏やGarbos ConsultingのDerek Garbos氏をはじめとするトップレベルのレーザーDJまで、あらゆる分野のレーザーリストの意見を聞きました。Derek氏は数百もの提案を寄せてくれただけでなく、QuickShowに付属するデモ用ワークスペースも作成してくれました。

デュアルコアプロセッサを推奨

Pangolinの過去の開発製品とは異なり、QuickShowはPC上でレーザーの計算と処理をすべて実行し、FB3などの出力ボードは色変換と最終的なレーザー出力にのみ使用されます。そのため、最良の結果を得るには、デュアルコアプロセッサ（Intel Centrino DuoまたはCore 2 Duo、あるいは同等のAMDプロセッサ）のご使用をお勧めします。

1024 x 768以上のモニター解像度を推奨します

QuickShowは、1024 x 768以上の解像度を持つシングルモニターで動作するように設計されています。それより低い解像度でもQuickShowは動作しますが、画面下部の一部の機能はご利用いただけません。

パンゴリンフォーラムとサポートセンターでさらに詳しいヘルプがご利用いただけます

QuickShowは初心者でも使いやすいプログラムを目指して設計されましたが、同時に非常に奥深いプログラムでもあります。どんなアプリケーションでも、QuickShowのパワーと機能を使い尽くすことはまずないでしょう。そのため、Pangolinフォーラムをぜひご覧ください。

QuickShowやその他のPangolin関連製品について理解を深めるためのトピックが多数掲載されています。Laserchat [フォーラム](#)はPangolinの[ウェブサイト](#)にあります。[サポートセンター](#)またはメール（support [at] pangolin [dot] com）にてご質問いただくこともできます。サポートリクエストを効率化し、より良いサービスを提供するため、サポートチケットシステムを導入しています。すべてのサポートリクエストには固有のチケット番号が割り当てられ、オンラインで進捗状況や回答を確認できます。お客様の参考として、すべてのサポートリクエストの完全なアーカイブと履歴を提供しています。チケットを送信するには、有効なメールアドレスが必要です。

パンゴリンクラウドでは無料のショーやキューが利用可能

QuickShowには、プログラム本体に約2000個のキューがインストールされています。さらに、新しいPangolin Cloud機能を使えば、追加のショーやワークスペース要素を無料でダウンロードできます。ツールバーの左上にある「CLOUD」ボタンをクリックしてサインインしてください。

QuickShow システム要件

QuickShowの推奨最小システム要件は次のとおりです。

- Intel 第 10 世代 i5、2.5GHz 以上などの x86-64 クアッドコア プロセッサを搭載した PC ノートブックまたはデスクトップ
- 8GB以上のRAM
- Intel グラフィックカード HD 4000 以上
- Windows 10、64ビット以上
- 5 Gb の空きディスク容量、SSD を強く推奨します。
- FB3/ドングルの場合は空きUSBポート
- FB4 の場合、1Gbit 以上のイーサネット ポート

QuickShowはMAC OSXや他のARM CPUベースのシステムでは動作しません。

FB3は、MシリーズCPUを搭載したMAC OSXで動作するParallelsでは動作しません。

複数のレーザー コントローラーを使用する大規模なプロジェクトでは、より高仕様のコンピューターが必要になります。

クイックセットアップ

QuickShow を初めて実行すると、クイック セットアップ ウィザードが表示されます。

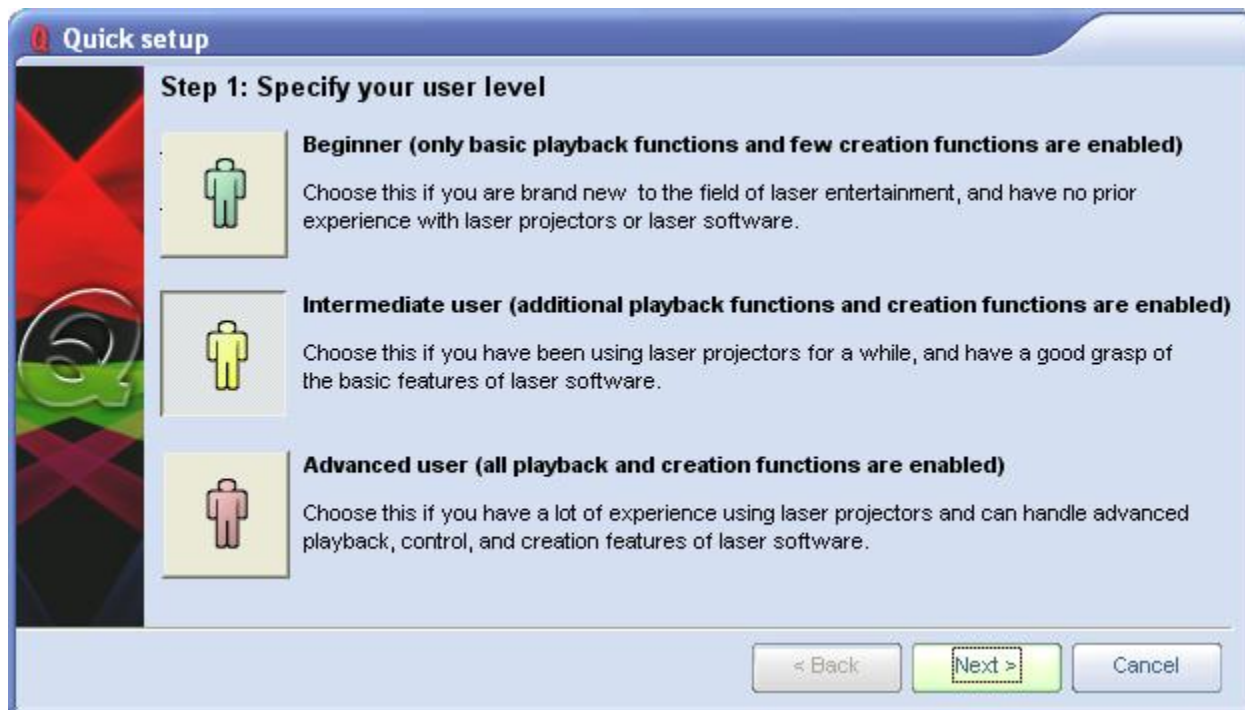
(クイックセットアップには、[設定] メニューからいつでもアクセスできます。)



クイックセットアップウィザードの目的は、QuickShowの最も重要な部分をユーザーのニーズとプロジェクターのニーズに合わせて設定できるようにすることです。

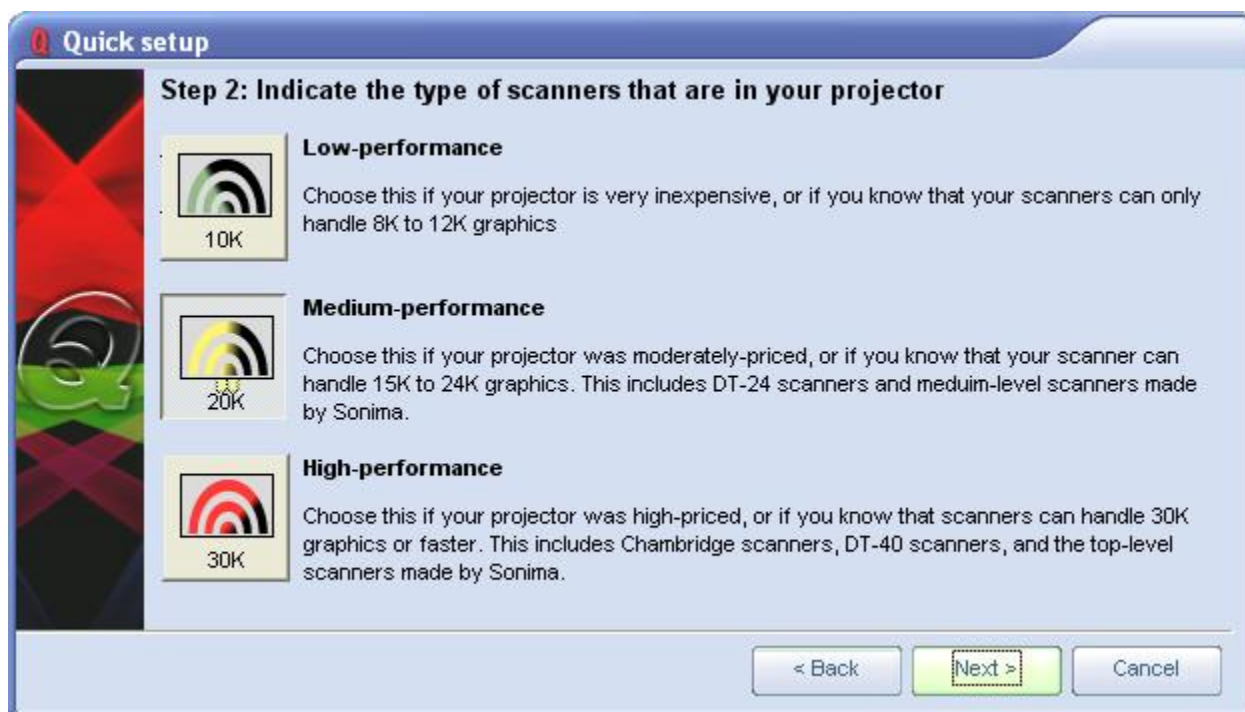
ステップ1: ユーザーレベルを指定する

プロセスの最初のステップは、QuickShow があなたのユーザータイプを把握することです。ユーザーレベルを選択する際は、できるだけ正直に教えてください。QuickShow はあなたのユーザーレベルに基づいて表示される機能をカスタマイズします。もしあなたが初心者で、QuickShow に自分が上級ユーザーだと伝えた場合、上級レベルの高度なツールに戸惑う可能性があります。



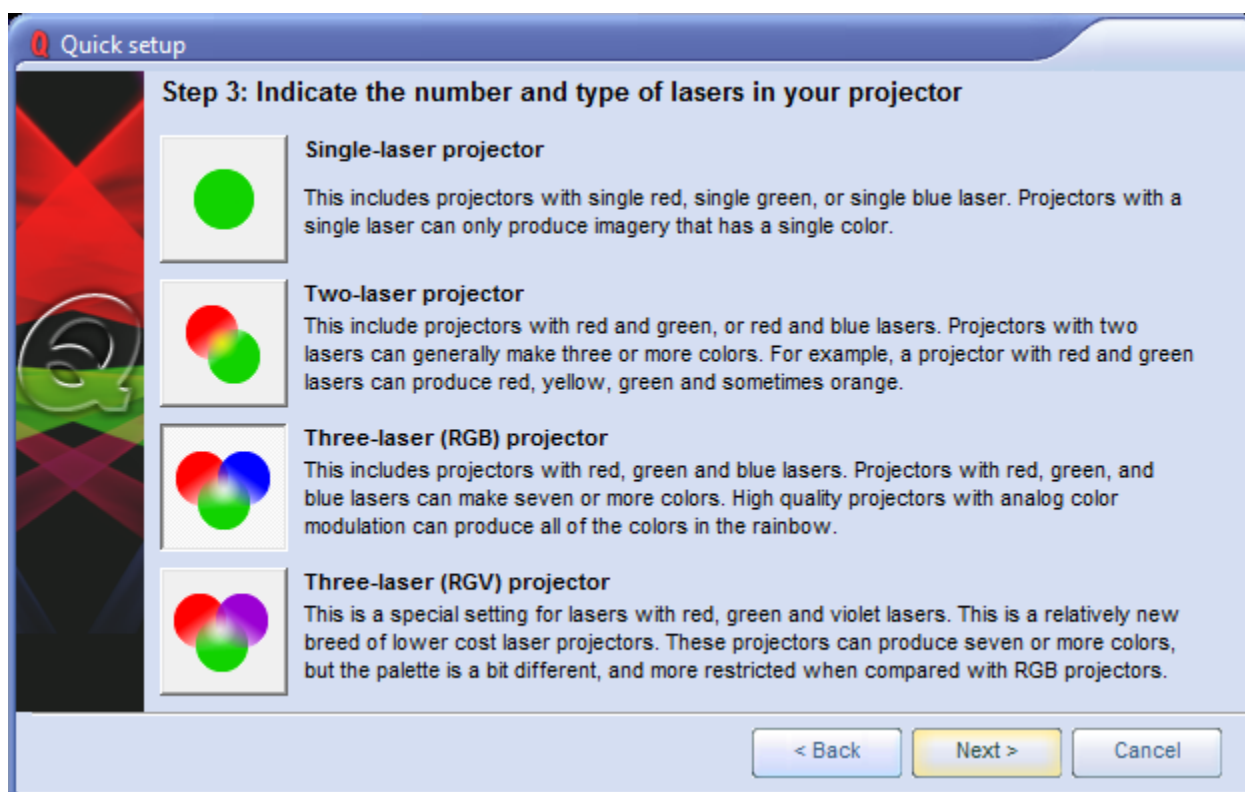
ステップ2: 所有しているスキャナーの種類を指定します

次のステップは、QuickShowにお使いのスキャナーの種類を認識させることです。**これは非常に重要です！**低性能のスキャナーをお使いののに、実際には高性能のスキャナーだとQuickShowに伝えると、QuickShowはスキャナーを過度に駆動し、過度の摩耗や発熱を引き起こす可能性があります。そのため、お使いのスキャナーの種類を指定する際は、できる限り慎重に行ってください。高性能設定は、アメリカ製のスキャナー、および最も高価なドイツ製と中国製のスキャナーのみに適用されます。



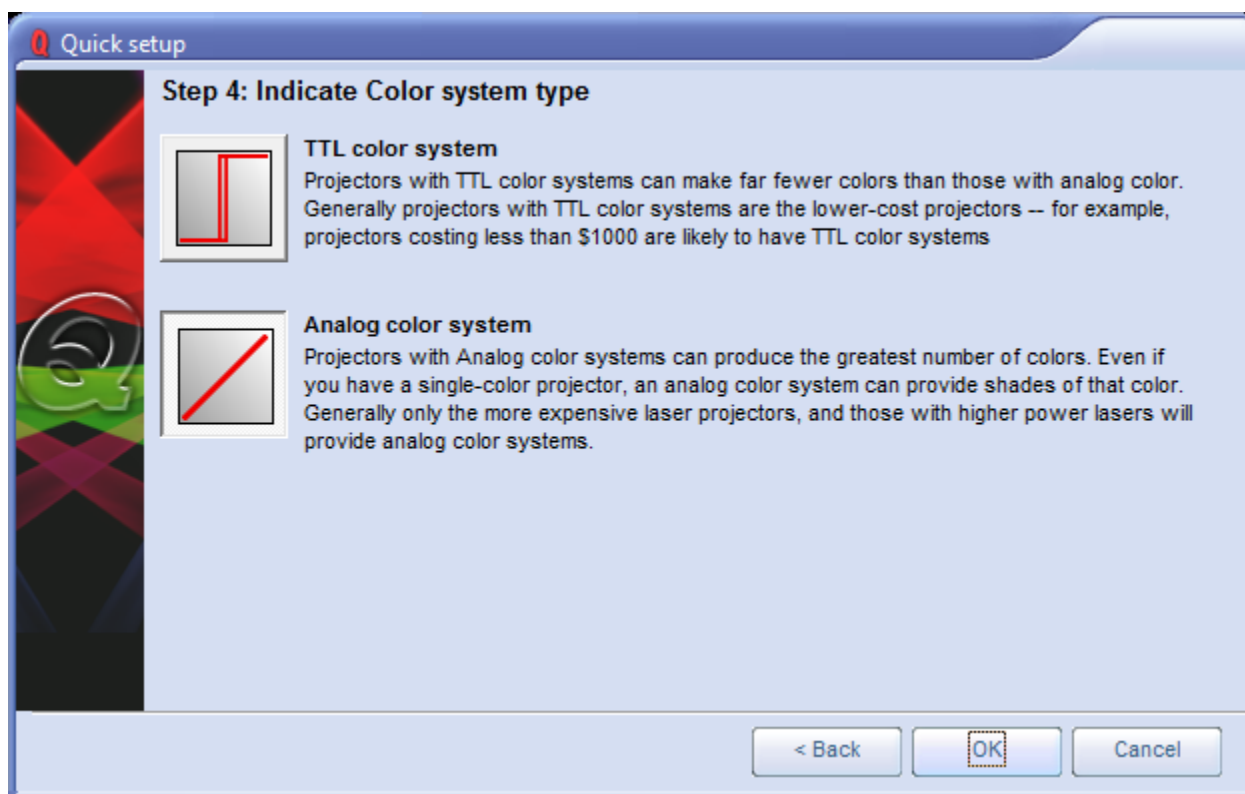
ステップ3: プロジェクターのレーザーの数を指定する

3つ目のステップは、プロジェクターに搭載されているレーザーの数をQuickShowに認識させることです。これは重要です。なぜなら、単色レーザーしか搭載されていないのに、QuickShowに実際にはRGBレーザーが搭載されていると認識させてしまうと、投影された画像に特定の色が表示されなくなるからです。QuickShowが尋ねているのは、プロジェクターが何色を出力できるかではなく、搭載されている**レーザーの数**です（例えば、2色レーザープロジェクターは少なくとも3色を出力できます）。



ステップ4: プロジェクターで使用されているカラーシステムのタイプを指定します

プロセスの4番目で最後のステップは、プロジェクターで使用されているカラーシステムの種類をQuickShowに理解させることです。プロジェクターに搭載されているレーザーは、TTL変調レーザーとアナログ変調レーザーのいずれかです。一般的に、安価で低出力のレーザープロジェクターはTTLレーザーを搭載し、高価で高出力のプロジェクターはアナログ変調レーザーを使用しています。お使いのレーザープロジェクターの仕様を確認し、以下の適切な選択を行ってください。誤った選択をすると、QuickShowはプロジェクターが生成できる最大色数を投影できなくなります。



次にプロジェクターの設定と目標ビーム位置を設定します

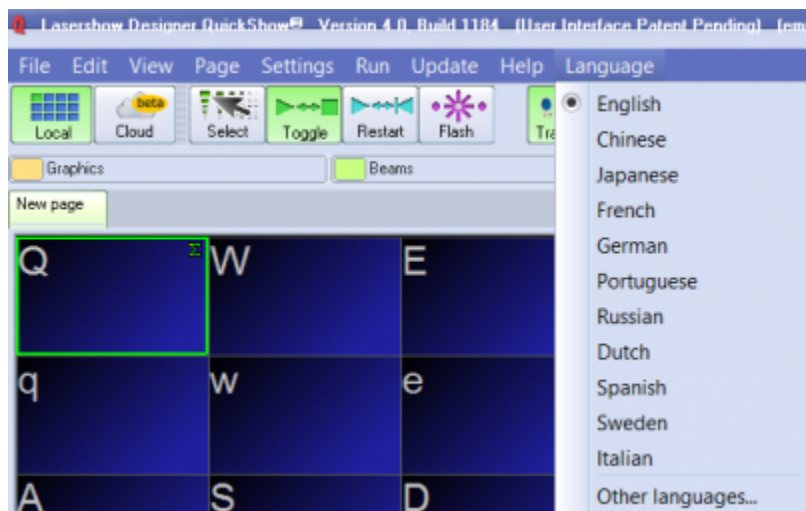
QuickShowは、上記の選択に基づいてユーザーインターフェースとプロジェクター設定の最も重要な調整を行うことができますが、**プロジェクター設定**ウィンドウを使用してQuickShowの出力をプロジェクターに微調整することが重要です。この部分が完了したら、次に **ターゲットビームの位置**を設定することが重要です。

言語の選択

QuickShow は現在、英語、中国語、日本語、フランス語、ドイツ語、ポルトガル語、ロシア語、オランダ語、スペイン語、スウェーデン語、イタリア語でユーザー インターフェイスを表示する機能をサポートしています。

QuickShow を初めて起動すると、言語を選択できるダイアログ ボックスが表示されます。

以下に示すように、メニュー ストリップの右端にある [言語] メニューを使用して、いつでも言語を選択することもできます。



QuickShowは他の言語にも簡単に対応できます。上記に記載されていない言語でQuickShowをご利用になりたい場合は、Pangolinまでお問い合わせください。